

第12回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会

メインテーマ 精神病院文化と看護者のかかわり

開催日：2002年6月1日(土) 2日(日) 会場：日本赤十字広島看護大学(広島市廿日市市)
学術集会大会長：日本赤十字広島看護大学 柴田恭亮

プログラム

6月1日(土)	12:00-13:10	受付
	13:10-13:20	オリエンテーション
	13:20-13:30	大会長挨拶
	13:30-15:30	基調講演
	15:30-15:45	休憩
	15:45-17:45	ワークショップ
	18:00-19:30	懇親会
6月2日(日)	9:00-12:30	一般演題発表
	12:30-13:30	昼食
	13:30-14:00	総会
	14:10-16:10	シンポジウム

基調講演

講師：W.. Pearl Washington
(Nurse Executive Veterans Affairs
Eastern Kansas Healthcare System)
テーマ：精神病院文化と看護者の相互作用
座長：稲岡文昭(日本赤十字広島看護大学)
通訳：戸村道子(日本赤十字広島看護大学)

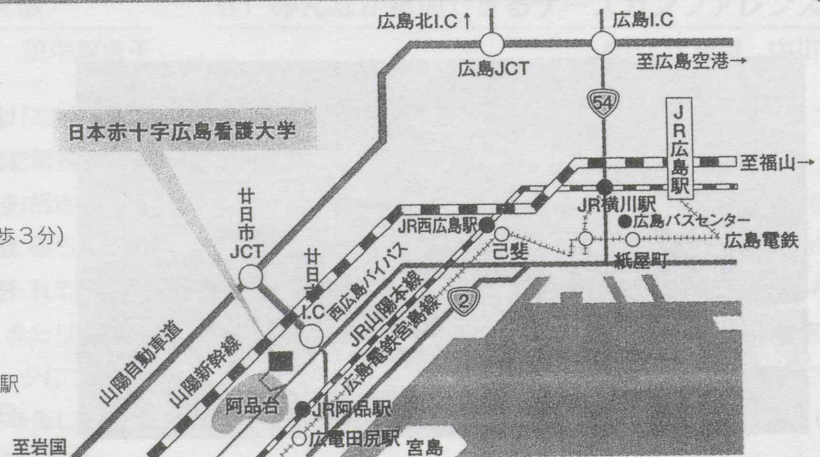
シンポジウム

テーマ：精神科看護の常識と非常識
座長：粕田孝行(碧水会長谷川病院)
シンポジスト：今泉正臣(国立療養所星塚敬愛園)
柴田恭亮(日本赤十字広島看護大学)
荻野雅(千葉大学)
三原淳子(岡山県、河田病院)

(ワークショップは3頁目をご覧ください)

日本赤十字広島看護大学案内図

- JR：JR広島駅→(JR22分)→JR阿品駅
→(バス7分)→阿品台東小学校→(徒歩3分)
- 電車：(広島電鉄)→広電紙屋町電停→(電車45分)
→広電田尻駅→(バス8分)→阿品台東小学校→(徒歩3分)
- バス：広島バスセンター→(バス50分)
→阿品台入口→(徒歩5分)
- 車：山陽自動車道廿日市I.C.→(車5分)
- 飛行機：広島空港→(リムジンバス50分)→JR広島駅



大会長挨拶

精神病院には、独特の衣食住の様式や内容、行動規範などがあります。これらを総称して精神病院文化と呼ぶとすれば、その形成には、多数派である看護者たちが少なからず寄与してきたはずで

す。社会状況によって部分的な変容はあっても、文化の本質は現在の精神病院に継承されています。そして、この文化が精神医療のあり方や、入院生活の内容に大きな影響を与えていることは確かなのです。

今回の学会では、この精神病院文化に焦点を当てメインテーマを設定しました。

基調講演をお願いしたPearl Wasinton先生は、長年にわたり現場で看護者、看護管理者として活躍してこられた実践家です。そして、ケネディ白書後、劇的な変容をとげたアメリカの精神医療を身を持って体験されています。先生には、アメリカの看護者たちが、劇的な変容をどう受けとめ対処したのかを講演していただくことになっています。

アメリカに遅れること30余年、わが国の精神医療は、同じような転機を迎えています。それだけに、我々にとって参考になる話が聞けると期待しています。

精神病院文化で裏打ちされた常識は、必ずしも一般社会の常識と一致しません。一般社会の常識との解離が、しばしば精神障害者の社会復帰の阻害因子になっています。

こうした意味で、シンポジウムは、「精神科看護の常識と非常識」というテーマにしました。4名のシンポジストに、それぞれの臨床経験をもとに、精神病院文化の実態を明らかにしてもらう予定です。フロアーからの積極的な発言を期待しています。

恒例のワークショップも、9つの会場で実施いたします。今回は例年になく発表演題の申込みが多く、早々と締め切らせていただきました。ありがとうございます。

世界の文化遺産宮島が一望できる会場で、参加する皆様をお待ちしています。

第12回 学術大会会長 柴田恭亮



四国山脈の麓の高台にある大学からは瀬戸内海を一望でき、また世界遺産に指定された日本三景の1つ厳島神社を眼下に見ることができます。風光明媚な広島に是非ご参加下さい。事務局一同心からお待ちしています。

日本赤十字広島看護大学（広島市廿日市市）

第12回 学術集会ワークショップ案内

1) 感性を磨く技法

[担当] 宮本真巳

感性という言葉は、周囲からの刺激に対する感受性と、その刺激から意味を読み取る力を意味します。このグループでは、対人関係の中で誰もが体験する“異和感”を吟味し分かち合うことを試みます。“異和感”とは、周囲としっくりこない時に味わう心と身体の不快感ですが、その中には私たちの体験している現実が凝縮しています。“異和感”の吟味を通じて、看護者に求められる感性をどう磨くかについて探してみたいと思います。(定員20名)

2) ナースによる心理教育グループの活用

[担当] 羽山由美子、水野恵理子

今年は3回目になりますが、精神障害者・がん患者を対象に、看護職が、どのように心理教育を展開するかその技法についてさらに深めていきたいと思っています。昨年の参加者の方のご希望にお答えして、今年はグループの運営に焦点をあてます。患者からどのような質問が出されるか、それにどう心理教育的に応じるか、具体的にロールプレイを交えながら、参加者もグループを担当するつもりになって演じ、話し合います。(定員50名)

3) 看護者が行う地域リハビリテーション

- 急性期からの回復過程における支援 -

[担当] 濱田由紀 田中美恵子

「患者さんは退院してどうしているだろう?」「なぜ再入院してしまうの?」。本ワークショップでは、地域で精神障害者のリハビリテーションを支援している看護者をお招きし、その活動の実際をご紹介していただきます。地域で暮らす当事者の視点から、看護者にどのような活動が求められているのか、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。またリハビリテーション活動の重要な技法であるグループワークについて、楽しくて、はっとするような体験学習の機会を準備しております。皆様のご参加をお待ちしております。(定員40名)

4) 体験グループ

[担当] 武井麻子・小宮敬子

このワークショップは、看護職者のための集中的グループ体験の場を提供するものです。その名の通り、「体験すること」が主眼で、頭で考えたり、知識を得たりするためのものではありません。ふだん、私たちは対人関係のなかで知らず知らずのうちに自分を出していることに、当の本人が一番気づいていないということがたくさんありますが、メンバー同士の交流のなかで湧いてくるさまざまな感情を吟味しながら、自分に気づくことを目的としています。(定員20名)

5) 精神看護学の教育展開

実習カンファレンスのあり方について

[担当] 瀧川薫 片岡三佳

カンファレンスは実習効果を上げる手段として重要で、よりよい患者ケアを目指し、看護または関連課題に関する集団討議を通して、相互の知識確認や感性を高める場となります。精神看護学実習では、患者・グループメンバー・指導者らとの関係を振り返り理解することで、対人関係における感性を高めることに重点を置きます。個人のみならずグループの人間性が成長するようなカンファレンスのあり方を、参加者の方々と共に考えます。(定員90名)

6) みんなが参加できるケースカンファレンス

[担当] 土屋徹 中川幸子

病棟で、学生カンファレンスで「ケースカンファレンス」を行う機会は多と思います。

ケースカンファレンス好きですか?得意ですか?受持ち患者の理解を深め、看護の方針を立てるには不可欠ですが、その準備や方法、話し合いの進め方には「いや、どうもねえ」と思うこともあるのではないのでしょうか。前年にひきつづき、SSTの技法を用いてケースカンファレンスを簡単で効果的に行う方法について考えてみたいと思います。(定員30名)

7) 精神科事例検討会

[担当] 平澤久一

精神科における患者理解、看護実践の共有、さらに深い看護を展開するための事例検討会が開かれるようになっていきます。検討会の目的や性格によってそれぞれの特徴があります。例えば、内容を問わず単なる事例にそってお互いに職場での体験をもとに深めていくものから、患者の成長の発達段階やその環境などの精神力動的な視点から深める方法などがあります。このワークショップでは、提供された事例をもとに精神力動的な視点から事例をどのように理解し、どう関わればいいのか参加者の意見や実践体験を出し合い次に生かすための参加者自ら作りあげる学習の場です。(定員25名)

8) 対象関係論とリラクセーションの導入

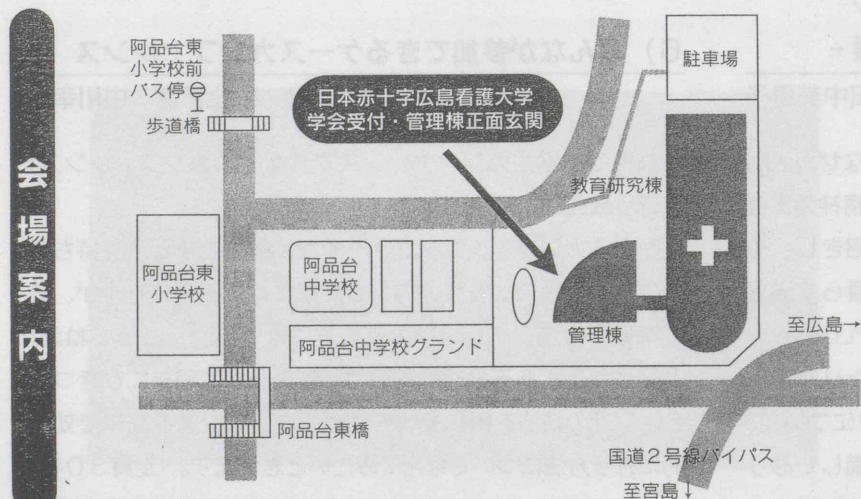
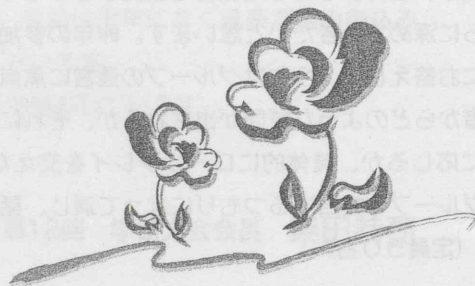
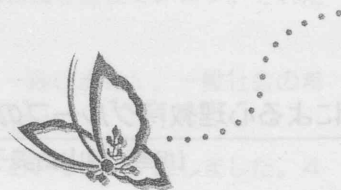
[担当] 五十嵐透子

リラクセーションの方法にはさまざまなものが含まれ、技法を指導するというイメージをもたれがちである。しかし技法だけの指導や教育だけでは十分な効果は得られにくい場合がある。技法導入における関係性のとり方やクライアントの個別性に応じた対応を、対象関係論の視点から理解してみたい。＜使用文献＞リラクセーションの理論と実際：ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門（2001）。医歯薬出版。(定員40名)

9) 精神専門看護師に関するワークショップ

[担当] 宇佐美しおり 早川昌子

現在認定されて活動を行っている精神専門看護師の数はまだ少なく、需要は増えつつも活動の実態については明らかではない。そこで、今回は専門看護師の機能の中で、日々のケアの改善につながりやすい「直接ケア」を取り上げ、精神専門看護師の活動の実態と成果、課題について、当メンバーらによる研究をもとに報告し、精神専門看護師の直接ケアの現状、課題について討議を行う予定である。(定員30名)



○JR

山陽本線・阿品駅 (JR広島駅より22分)
→ バス「阿品台北行」乗車 (バス7分)
→ 阿品台東小学校下車 → 徒歩3分

○私鉄

広電阿品駅
→ バス「阿品台北行」乗車 (バス8分)
→ 阿品台東小学校下車 → 徒歩3分

○山陽自動車道廿日市I.Cより車で5分

教育活動委員会からのご報告

聖路加看護大学 羽山由美子

本年度は、「入院患者の人権保障」をテーマにワークショップを開催しています。すでに、前のご報告しましたように、第1回は、2001年8月18日に新潟青陵大学で、藤野ヤヨイ先生ご夫妻が中心になり、「精神医療における患者の人権保障を確立するために」というテーマで開催されました。近県を中心に100余名が集まり盛会でした。

第2回は、2001年12月8日、宮城大学で、伊藤ひろ子先生の企画運営で開催しました。テーマは、「患者の最良の利益を求めて—看護婦と患者の関係性から患者の人権を考える—」でした。午前はパネルディスカッションで、林和功氏（茨城県立友部病院）、高橋ゆり子氏（宮城県立名取病院）、岩館俊晴氏（国見台病院、医師）、伊藤ひろ子氏（宮城大学）がそれぞれ、看護・医療のあり方とその実践のなかでの人権保障について語りました。患者にとっての「最良の利益」とはなにを意味するのか、ある方はご自分の看護観を、また別の方は、病棟管理者としての婦長の立場からインフォームド・コンセン

トのあり方について話されています。医師の立場からは、精神療法的接近それ自体に個の尊重を、企画者の伊藤氏は患者理解の視点から人権保障について語られました。午後は、グループワークで、ここでもそれぞれの立場から看護を語り合いました。結局、人権保障のあり方を考えると、私たちの実践そのものが問われてくるのです。

第3回は、2002年3月23日（土）、筑波大学医療技術短大の上野恭子先生の企画運営で、「精神障害者の人権保障を考える—地域と家族のつながりを大切にしたい看護ケア—」と題して開催されます。今回は、家族会の代表や、PSWの方、当事者も発言者に加わります。院内だけでなく、社会復帰を支える地域ケアの広い視野にたつて、人権問題について話し合います。こうして看護職の一人ひとりが、アドボケート（人権擁護者）としての役割を担っていけるように、これからもこのテーマを深めたいと思います。

（2002.3.20記）

日本における自殺の現状と対策について

日本における自殺者は、平成10年には3万2千人（うち労働者は8千7百人）となり、前年に比べ34.7%（同39.6%）増加し、初めて3万人を超えた。以後毎年3万人を超え、死因第6位（10万対25）となっている。ことに平成9年と10年を比較すると、35歳から64歳の中老年の男性の自殺の増加が著しく、そのことが日本全体の自殺率を押し上げていることが明確になっている。厚生労働省はこのような事態を重く見て、平成13年、自殺防止対策のための予算（349,392千円）を計上し検討を開始した。

自殺防止対策の概要は、1.自殺防止対策に係わる提言を図るための有識者懇談会の開催、2.相談体制等の整備、3.自殺防止の普及・啓発、4.研究の推進が挙げられている。中でも相談体制の整備としては、(1)「いのちの電話」を中心とした自殺防止ネットワーク構築による相談体制の充実強化のための相談推進協議会の設置、(2)「いのちの電話」の相談員の確保、資質の向上を図るための養成研修、(3)EAP（employee assistance program:従業員援助プログラム、労働者の心の健康づくりの相談を行う民間組織）の活用に関する検討などの事業が挙げられている。また、自殺防止の普及・啓発事業と

しては、(1)「いのちの日（仮称）」の制定、(2)自殺防止セミナー、シンポジウム等の開催、自殺防止マニュアルの作成等が挙げられている。

ここ数年自殺が激増している中高年の自殺防止に、看護の分野でもっとも関わりを持つのは産業看護職である。一方で日本においては、高齢になるほど自殺率が増加することも統計的に明らかとされており、今後ますます高齢化が進展する中、高齢者のメンタルヘルスの問題についてもなおざりにすることはできないであろう。現在同時に、「健康日本21」の中で重点項目の一つとされている精神保健福祉事業の具体的な取り組み内容を明らかにする「総合計画（仮称）」が、社会保障審議会障害者部会精神障害者分会において検討されているが、広く地域・職域をも視野に入れたメンタルヘルス・サービスのあり方とそこで看護職が果たせる役割について明確なビジョンを持つことが必要とされているといえるだろう。

（以上の「自殺防止」有識者懇談会、社会保障審議会の詳細は、厚生労働省のホームページにて随時公開されることとなっています。詳しくはそちらをご参照ください。）

（文責：田中美恵子）

第12回

日本精神保健看護学会総会
学術集会のお知らせ

日 時：2002年6月1日(土) 6月2日(日)

場 所：日本赤十字広島看護大学(広島県廿日市市)

参加費：会員5,000円、非会員6,000円、学生2,000円

＜平成14年度 総会・学術集会・懇親会の申込みについて＞

ニュースレターと一緒に「参加申し込みハガキ」と「振り込み用紙」が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、振り込み用紙で入金の上、「参加申し込みハガキ」を学術集会事務局宛に5月10日(金)までお送り下さい。なお、総会を欠席される方は署名捺印し投函して下さい。学術集会参加費は、会員5,000円、非会員6,000円、学生2,000円となっています。懇親会に参加される方は、3,000円の会費を合わせてお送り下さい。大学周辺は飲食店がありませんので、弁当は前もって予約してください。

なお、振り込み用紙はお一人様1枚で、通信欄該当箇所にチェックして下さい。専用の振り込み用紙がない場合は、郵便局備え付けの用紙で「01350-8-67267 日本精神保健看護学会・学術集会」宛に会員・非会員・学生、懇親会参加の有無を明記の上、その合計金額をお振り込み下さい。また、学会当日に振り込み領収書の控えをご持参下さい。

第12回学術集会に関するお問い合わせ

郵便番号738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2

日本赤十字広島看護大学・第12回日本精神保健看護学会学術集会・企画委員会(担当：平澤、柴田)

FAX：代表0829(20)2863 (問い合わせはFAXでお願いいたします。)

編集委員会からのお知らせ

— 学会誌投稿規程の改定について —

編集委員会では、5月発行予定の学会誌第11巻の編集作業を現在進めているところです。第11巻はこれまでのB5版からA4版になり、デザインも新たに皆様にお送りする予定です。デザインの刷新に伴い、投稿規程についても原稿種類、原稿枚数、引用文献の記載様式、投稿宛て先等を変更いたします。新しい投稿規程は、第12巻への投稿原稿より適用されます。5月にお手元に届きます第11巻の投稿規程をご覧になり、学会誌第12巻(平成14年9月10日締め切り)に奮ってご投稿いただけますようお願いしております。

投稿宛て先：〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9 (財)日本学会事務センター内 日本精神保健看護学会
(投稿先が変更になりましたので、ご注意ください)

学会へのお問い合わせについて

学会への入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求め等に関するお問い合わせ、住所や所属の変更につきましても、直接下記までご連絡をお願いいたします。

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター 日本精神保健看護学会事務所

Tel:03(5814)5810 Fax:03(5814)5825

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
Letter*

編集後記

理事会でたくさんの演題が集まっていると報告がありました。広島で多くの方と久しぶりに、また、新たな出会いを楽しみにしています。

もちろん、広島名物もですが・・・ N

編集委員

田中美恵子 中川 幸子
濱田 由紀 若狭 紅子